

# 平成25年 敬老作文集

## 小学生の部

### 最優秀賞

おじいさんとお米とホタル

井川小二年 伊藤 春音



春音さん  
(街道)

敬老作文コンクール入賞者の表彰と最優秀賞を受賞された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行なわれました。

例年同様に、井川小学校2年生並びに5年生、井川中学校2年生を対象として、合わせて121点の応募をいただき、小・中学生の部それぞれより、最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞2点の計10点の入賞作品が決まりました。入賞された方々の敬老作文を、ご紹介します。

今年もおじいさんといっしょに、いえのそばで、ホタルを見たよ。夜に、おじいさんといすをならべて、ホタルをさがすんだ。おじいさんは、ホタルを見つけると、「春音、おいで。見てごらん。」と教えてくれるよ。ホタルは、おしりをひからせて、田んぼのいねのはっぱにとまっていたり、田んぼの上をとんでいたりしているよ。

はじめて見たときに、おじいさんは、ホタルをつかまえて、手のひらにのせてくれたんだ。夜のくらい中で、黄色くひかっていたホタルは、すごくきれいだったよ。ホタルを見ていたら、すこしさむくなってきた、おじいさんが、タオルケットをもってきてくれたよ。かけていたら、あったかくなったから、おじいさんに、わたしがかけてあげたよ。おじいさんと二人で、「きれいだね。」と話して、ずっと見ていたんだ。

おじいさんは、ひるも夜も田んぼを見に行くんだ。草をかつたり、水を入れたり、ひりょうをやっているよ。おじいさんは、よく「天気が気になるなあ。」と話しているよ。この前、雨がずっとふらないときは、「雨がふらないかな。」とすごくしんぱいしていたよ。お米づくりでは、水が大切で、ホタルもお米と同じで、水のきれいなところにいると話していたよ。ホタルがいる田んぼだから、きれいな水でおいしいお米がとれるんだね。おじいさんといっしょに、これからもずっとホタルを見ていたいな。

### 優秀賞

おじいさんはすごい

井川小二年 石郷岡 慎治



慎治さん  
(街道)

ぼくのおじいさんは、おすしやです。やくばのそばの「きよずし」ではたらいています。おじいさんのにぎったおすしは、さいこうです。ぼくがすきなものは、まぐろとサーモンです。なつとうまきもおいしいです。

いえにいるおじいさんは、テレビを見てゆっくりしているけれど、おすしやおじいさんは、長いほうちょうでおさしみや魚を切っていて、いそがしそうにしています。

ごはんを左手にもって、右手でわさびをとって、ごはんにつけます。それから、わさびの上に魚をのせて、にぎりませす。できたおすしをいたにのせて、おきやくさんの前に「はいっ。」と出します。おじいさんは、ていねいにすばやくおすしをにぎります。おすしをにぎっているおじいさんは、とってもかっこいいです。

おすしやくさんのしごとは、おきやくさんがくる前からはじまっています。お店は午後にはじまらいます。でも、おじいさんは、午前からいちばに行つて魚を買つてきたり、買つてきた魚をおすしにのせることができるように切つたり、おこめをといでごはんをたいたりします。午後にお店をひらいて、夜おそく十一時ころまでしごとをしていきます。おすしが大ききで、おきやくさんと話をするのがすきだから、おすしやくさんになつたそうです。

ぼくも、おすしやくの手つたいをします。おしよゆうゆを入れたり、おきやくさんに出すおしぼりをたたんだりします。そんなとき、あ

りがとうとやさしく言つてくれます。

おじいさんは、おきやくさんがおなかをいたくしないように手をおなつたり、回りをきれいにしたりすることに気がつけています。おいしいおすしをおきやくさんに出せるようにしごとをしているおじいさんは、ぼくのおじいさんのかっこいいおじいさんです。ぼくは、おじいさんのおすしが大ききです。

じじからの忘れられない贈り物

井川小五年 齋藤 紗月



紗月さん  
(赤)

私の宝物。それは、家族です。

じじも私の大切な宝物です。

じじとは、小さい頃は買ひ物にもよく出かけました。うちの買ひ物の用事がすむと、「紗月、食べたいお菓子ねえが？」と私にたずねます。私は、そう声をかけても

らうのを楽しみにしていました。低学年のころ、たまにじじの家に行くとき、居間で一枚の画用紙にじじと一緒に絵をかきました。学校であつたことや家族のことなどおしやべりしながらかきました。

のメッセージが書かれた色紙をもらいました。私が受け取つたメッセージ。それは生前、母がじじにたのんで書いてもらった私への最後のメッセージでした。

じじは、私をひぎにだつこして、本もよく読んでくれました。じじのひぎはとつても居心地がよかつたです。

「紗月、二分の一成人式おめでとう。紗月はがんばりやだから、すごいね。」私はうれしくてなみだが出ました。

虫とりにも二人でよく出かけました。虫かごと虫あみを持つてじじの家から少し離れた林に出かけます。私がうまくつかまえると、「紗月、上手だなあ。すごいねえ。」とほめてくれます。うれしくて、また虫をとります。私は、虫とりが得意になりました。

じじはいつも私を支えてくれたね。人に対するやさしさ、それをじじから教わりました。今度は私がおきやくさんを支える番だね。じじ、ありがとう。これからも見守つてね。

四年生の秋、じじが入院しまし

野さいいっぱいありがとう

井川小二年 児玉 晃成



晃成さん  
(中下村)

う思つていました。それが、二月に亡くなつてしまいました。悲しくてなみだが止まりませんでした。じじがいなくなるということ、私にとつてはありえないことだつたからです。

少したつて、二分の一成人式がありました。みんなが、両親から

ぼくのおばあちゃんは、野さいづくりの名人です。ぼくの大きき

なトマトやナス、ピーマン、玉ネギ、たくさん野菜をつくっています。夕がおやサトイモもつくっています。

おばあちゃんは、野菜がとれると、ぼくのいえにもってきてくれます。ぼくは、ミニトマトがーばんすき。おばあちゃんは、夏になつてあつくになると、赤くてまあいミニトマトをとどけてくれます。そのままあらってたべるのがーばんです。ミニトマトはあまくとどつてもおいしいです。

おばあちゃんに、どうして野菜をそだてているか聞いたとき、「こうせいに、とれたばかりのおいしい野菜をたべさせたいから。」って言っていました。おばあちゃんは、野菜をそだてるときに、くすりをつかわないそうです。くすりをつかわないほうが、あまいおいしい野菜がとれるし、体にもいいからなんだと言っていました。

おばあちゃんの野菜いづくりに、は、ひみつがあります。ぼくのすきなトマトをあまくおいしくするために、こめぬかをつかっています。

す。たべのこしのざんぱんもつかってひりょうにしているそうです。そうするとおいしい野菜ができるって言っていました。

おばあちゃんの野菜は、おいしいから虫もつきません。そんなとき、おばあちゃんは、一つ一つわりばしで虫をとっているそうです。くすりをつかうと、虫がつかないけれど、ぼくたちの体のことを考えています。おばあちゃんは、朝早くおきて、野菜の草とりをします。野菜が早くそだつように、朝とばんに二回、水をいっぱいあげるそうです。

ぼくたちのことを考えて野菜をそだててくれるから、おいしい野菜がいつぱいとれます。おばあちゃん、たくさんおいしい野菜をありがとうございます。

笑顔がまぶしい私のおばあさん

井川小五年 石坂 真呼



真呼さん  
(井川小五年)

「真呼ちゃん、よく遊びにきたなあ。」そう言つて満面の笑顔で私をむかえてくれたおばあさん。私も思わず顔がほころびます。

私のおばあさん上野ミチエさんは、もう八十才。でも、そう思えないくらい元気で笑顔がすてきな おばあさんです。

おばあさんとはなかなか会う機会がありませんが、それでもたまに会ったときは、話はずみです。私の話を、「うん、うん。」とあいづちを打ちながら聞いてくれます。おばあさんは聞き上手な人です。

通知表を見せると、「真呼ちゃん、頭がいいんだねえ。すごいねえ。」とほめてくれます。私は、とてもうれしいです。

帰る時には必ず、「気を付けて」とやさしい言葉をかけ、自分の家でとれた新鮮な野菜を持たせてくれます。なすにトマト、きゅうりにスイカや枝豆など。それらの野菜は、みずみずしくてとてもおいしいです。わたしの家も今年から畑作りを始めました。野菜は、虫にくわれたり、暑さで夏バテすることもあります。収穫するまで手間がかかります。手間ひまかけているからこそ、おばあさんの作った野菜がおいしいのだと分かりました。おばあさんは、野菜作りの達人です。

おばあさんの長生きのひけつは何だろう。ある日、お母さんにたずねてみました。おばあさんは、焼き魚などの魚料理や貝を海水でいた料理を多くとるようにしているそうです。私も、カルシウムの多い食事を毎日とっています。おばあさんのように長生きしたいと思います。

おばあさん、健康に気をつけてバランスのよい食事をとり、百才まで長生きしてね。いつも私をかわいがつてくれて、ありがとう。

## 中学生の部

### 最優秀賞

#### つながる笑顔

井川中二年 齋藤 あみ



あみさん  
(小今戸)

「ババ、このお肉すごく美味しいね！」私はババにそう言った。私は小さい頃から祖母のことをババといっている。その癖が抜けず、今でもそう呼んでいるのだ。実家に泊まる時、ババはいつも晩ご飯を肉料理にしてくれる。私がお肉が好きだから、そうしてくれるのだ。ババの料理はすごく美味しいので、ご飯がとても進む。ババは私が「美味しい」というと、「良かった」といって笑ってくれる。ババには料理の他にも、色々なことをしてもらっている。ババは

外での草むしりや家の掃除もしている。それなのに、私が出る空手の大会や、吹奏楽部のコンサートを他の家族と一緒に観に来てくれる。

美味しい料理をつくってくれたり、空手の試合などを応援してくれたりしてくれるのは、当然のことのように、実はとても幸せなことなんだと感じた。

私は祖父のことも、祖母と同じような理由で、てっちゃんと呼んでいる。てっちゃんはとても面白く、優しい祖父だ。いつも冗談を言ってお笑わせてくれる。なぞかけをしてクイズを出してくれる時もあり、いつも笑顔になれる。ババはてっちゃんが冗談を言う時、とても笑う。家が笑顔でいっぱいなのは、てっちゃんがいるからだ、と思った。

二人は、私が空手の大会で勝つと、まるで自分のことのように喜んでくれる。だから、きつと二人は私にとつての出来事を、自分達のことのように感じてくれているのだと思う。それに私も、二人が

喜んでくれると自分自身を誇らしく、嬉しく感じるのだ。

自分一人では何もできない私ができることといえば、良い成績などを残して、二人を喜ばせることくらいだろう。

これからも、二人を笑顔にできるように自分でありたいと思う。

### 優秀賞

#### ありがとう、おばあちゃん

井川中二年 遠藤 紬



紬さん  
(今戸)

「いつてらっしやい。」私が学校へ行くとき、手入れをしている庭の木のかげから顔を出しておばあちゃんは言ってくれます。小学校の高学年のときはなんだか恥ずかしくて、「うん。」と返していたけれど、最近は「行ってきます。」

と返せるようになったかなと思います。その一言でいつも今日一日頑張ろうと思うことができます。

最近をよく旅行に出かけていて、山形のさくらんぼ狩りの話や、長野のアルプスの話をしてくれました。その話をしているおばあちゃんの顔はなんだか楽しそうで、聞いているこっちも楽しい気持ちになります。また、私は部活で忙しく一緒に出かけることがあまりないのですが、夏休みになったらおばあちゃんと出かける約束をしました。まだ決まっていけないのですが、小さい頃に行った馬場目川が印象に残っているので実現すればいいなあと思っています。

家に忘れ物をしたときわざわざ学校まで届けてくれたおばあちゃん。私が体調を崩したとき病院まで連れていってくれたおばあちゃん。これまで迷惑をかけた場面が本当にたくさんありました。その度に感謝の気持ちでいっぱいになります。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。

数えきれないほどの

「ありがとう」

井川中二年 遠間 未来



未来さん  
(田中)

私には、一緒に暮らすおじいちゃんとおばあちゃんがあります。私は二人が大好きです。

おばあちゃんは、いつも明るくてすごく優しいです。学校の話も聞いてくれて、私は毎日一緒にいられて幸せです。でも私は今までおばあちゃんに、本気で思っていない言葉がたくさんぶつけてしまいました。なかなか謝れない私に普通に話しかけてくれたおばあちゃんに、いつも助けられてきました。おばあちゃん、いつもごめんね。でもそれ以上に、いつもありがとう。

急に歌い出す不思議なおばあちゃん。弱音一つ吐かずに何でも

こなすパワフルなおばあちゃん。私を全力で応援してくれる優しいおばあちゃん。私はそんなおばあちゃんが大好きです。

私のおじいちゃんは、いろんな仕事をこなす本当にすごいおじいちゃんです。おじいちゃんは、私の吹奏楽の演奏もたくさん聴きに来てくれて、いつもほめてくれます。私にとつてその言葉はいつも励みになっています。でも、私もおじいちゃんも気が強いので、たまにぶつかってしまいます。いくら反省しても足りないくらい、たくさんぶつかってきました。おじいちゃん、いつもごめんね。でもそれ以上にいつもありがとう。

おじいちゃん、おばあちゃん、たくさん迷惑かけてごめんね。いつもいつも八つ当たりしてごめんね。心配ばっかりかけてごめんね。でも、いつも私を受け止めてくれて、相談ののってくれてありがとう。数えきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう。これからずっとずっと一緒にいてね。

## 優良賞

一人じゃないよ

井川中二年 鈴木 舞星



舞星さん  
(街道)

私のおばあちゃんはとても元気です。今は畑で野菜を作っています。トマトやきゅうり、枝豆やナスなどたくさん野菜を育てています。みんながまだ寝ている朝四時ころに起きて、野菜に水をあげています。私が小さいころ「どうしてそんなに早く起きているの」と聞くと、おばあさんは「野菜も人間と同じだから朝はしっかりと花に水をやらなきゃいけないんだ。」と言っていました。

そしてその話を聞いて、私も朝四時に起きて水やりをやってみました。そこには、今まで見たことのないきれいな野菜たちが並んで

いました。まるで水を待っているかのように。そして、野菜に水をかけて、実っている野菜を収穫しました。トマトやきゅうりなどを収穫してみんなに食べさせました。みんなよろこんでくれて嬉しかったです。

そのとき私が思ったことは、みんなより早く起きて、眠いし疲れるし、苦労すると思ったけれど、みんなより苦労しているからこそ、嬉しいことにつながるんだということです。まさに私のおばあちゃんの元気の源だと思えます。

私のおじいさんは、私が生まれる前に亡くなってしまい、顔も性格もわかりませんが、仕事は会社の社長をやっていて、料理がとてもうまかったそうです。そんな話を聞いて、一度会ってみたいと思いました。ひいおじいさんが亡くなって、ひいおばあちゃんは一人で野菜を育てたり家事をしたりしています。

「一人じゃないよ。これからも私がそばにいるから。」と伝えたいです。

あの優しいおじいさん

井川中二年 島山 大河



大河さん  
(街道)

いつも通りに、自転車通学をしているときのことでした。前に、犬の散歩をしているおじいさんがいました。あいさつをしたら無視されました。最初は、愛想が悪いな〜っと思いました。それから、毎日その人に会うようになりました。毎日会っているのです、毎日あいさつをしました。その効果があったのか、その日以来、あいさつをしてくれるようになりました。あいさつをして、とっても気持ちが良いし、そのおじいさんも、笑顔であいさつを返してくれます。そのとき思ったことは、地域の人のあいさつは元気が出るなあということでした。

町内花だんの花苗植えのときも、犬の散歩のおじいさんと会いました。花苗植えをしながら、おもしろい話をしてくれました。その話というのは、本当におもしろかったです。おもしろすぎて、作業がはかどりませんでした。

最後に、国花苑のさくら祭りのときのことです。さくら祭りのときも、そのおじいさんに会いました。そのとき、そのおじいさんがあめをくれました。とっても嬉しかったです。優しいおじいさんでした。そのときに、僕も老後、毎日散歩をしようと思いました。

地域のお年寄りとの交流を楽しみに、これからも生活していきたいと思えます。

